

Die schönsten

Kinderspiele

Von

Brigitte Lindig

Keyerssch Verlagsbuchhandlung München

江波諄子

今月は、少し趣向を変えて、ドイツの子どもの遊びをいくつかご紹介いたしましょう。

「楽しい子どもの遊び」と題されたこの本の中には、「家の中の遊び」が二十五、「子どもの行事に関する遊び」が二十八、「テーブルでの遊び」が十六、「ひとりで遊べるもの」が八、「布や紙を使った遊び」が十、「戸外遊び」が二十二、「歌や踊りをともなう遊び」が十一、「ボールを使った遊び」が十六、それに「地面上での遊び」が十六と、合わせて百五十二もの遊びが、楽しいイラストとともに紹介されています。その中から、いくつかの遊びを読んでみましょう。

まず、最初に「家の中の遊び」に次のようなものがあります。

★水の中に何がいます？

子どもたちは輪になってすわり、その中央にリーダーが立ちます。リーダーは、輪の中をゆっくりまわりながら考えます。突然、リーダーは子どものひとり指名し、彼に「水の中に何がいます？」と尋ねます。それから、一、二、三、四、五、六、七、と数えます。尋ねられた子どもは、できるだけ早く、水の中に住む動物の名を答えなくてはな

りません。七つ数えるうちに、その子どもが答えられなかった時は、彼はチップを与えなければなりません。それからリーダーは再び続けて考えます。そして、突然、「空に何がいます？」と尋ねます。当てられた人は、七つ数えるうちに、空に住む動物の名をできるかぎり早く答えなければなりません。その時、単に「小鳥」というだけではいけません。ちゃんとした小鳥の名前をいわなくてはならないのです。リーダーは、再び考えめぐらします。そして、突然、子どもに「地中に何がいます？」と尋ねます。当てられた子どもは、七つ数えるうちに、すばやく答えなければなりません。リーダーは、決った順序に従う必要はありません。人けれど、任意に地とか、海とか、空などについて尋ねるのです。

このゲームは、リーダーが特定の頭文字をあげて、それで始まる動物の名をいうようにすると、もう少しむずかしくなります。たとえば、「Eで始まる、水の中にいるものは？」、一、二、三、四、五、六、七。すると、Eで始まる水の中に住む動物の名前をすばやくあげなくてはなりません。答えられなかった人は、チップをあげなければなりません。

次は、子どもの行事の時によく行われる遊びを二つご紹介いたしますしよ。

★羊の頭

この遊びは、誕生日の初めによく行われます。ですから子どもたちは、何度もするうちによく覚えてしまいます。子どもたちは、互いに並んですわり、そのうちのひとりが、たとえば「私はクリスタといいます」と、自分の名前をいって始めます。その隣りの子どもは、私は、「クリスタの隣りにすわっていて、ピーターといいます」と自分の名をいいます。こうして続けていって、誰か隣りの人の名をいえなかった人が出たら、残りのすべての子どもたちは、飛び立って「羊の頭」と叫びます。羊の頭とは、日本語の意では馬鹿といった意があります。それ以上、「羊の頭」といわれたくなかったら、チップを払うか、何かしなくてはなりません。

★どこに電報がありますか

子どもたちは、輪になってお互いに手をつなぎます。輪の中央にひとりの子どもが立って「電報はどこですか」と叫びます。輪をつくっている子どもたちは、握手する時に、こっそり、慎重に電報を隣りの人にわたしていきま



す。輪の中にいる子どもは、注意深くそれを見つめ、電報がどの手の中にあるみつけ出します。電報がみつかったら彼は輪の中にもどります。

次は、戸外での遊びを二つご紹介してみましよう。

★袋飛び

地面にスタートラインを引き、そこから約十メートル離してゴールの線を引きます。子どもたちは、それぞれ大きな袋をもらってその中に入り、両側をしっかりとぎります。スタートの合図ですべての子どもが一斉に袋ごと飛び出します。ゴールに一番早く着いた子どもが勝ちです。

★ふりむかないで

子どもたちは、背中を内側にむけて、輪になります。輪の中にひとりが入り、ハンカチを手に持ちます。ハンカチを結んで、次のようにいます。

ふりむかないで

結んだハンカチ（とんまの意）が歩き回ります

ふりむいた人と笑った人には

背中に青アザつくるぞ。

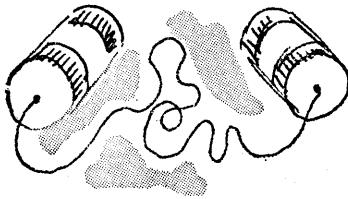
日本語でいえば、鬼にあたる、ハンカチを持った子どもは、なるべく気づかれないように輪になって立っている子

どもの誰かの後にハンカチを落とします、落とされた子どもは、気がついたら早くそのハンカチをひろいあげ鬼の後を追いかけます。鬼は、つかまつたらたたかれますので、できるだけ早く輪の外へ出ようとします。もし、ハンカチを落とされて気がつかなかったら、鬼は、二度目に回って来た時に、ハンカチで一回その子どもをたたくことができ、その子は輪の中に入って、今度は鬼になります。

最後の遊びは、日本のハンカチ落としとよく似ています。日本と異なる所は、子どもたちが外をむいて立って輪をつくり、鬼が中に入っていることです。

子どもの遊びは、時代や地域を越えて、非常に共通点が見られるといわれますが、この楽しいドイツの子どもの遊びをひとつ、ひとつ読んでいくうちに、不思議と何か暖かい親近感が湧いてくるのです。

(十文字学園女子短期大学)



幼児の教育 第七十三巻 第十一号

十一月号 © 定価一七〇円

昭和四十九年十月二十五日印刷
昭和四十九年十一月一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレーベル館にお願いいたします